

2018年度  
事業報告書

自 2018年 4月 1日

至 2019年 3月31日

一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS



# 2018年度事業報告書

## I. 総括

2016年8月、日本財団 TOKYO 展 2020(任意団体)として設立した当団体は、2016年10月3日、一般財団法人に移行した。2017年4月、これまで以上に全ての人が共に生活できる社会の実現をより一層加速させるため、新たに舞台芸術公演の開催を事業内容に加えることにし、団体名称を「一般財団法人日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」に変更した。

設立から三年目にあたる 2018 年度は、以下の事業を実施した。

- (1) 「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス」を 2018 年 9 月 13 日から渋谷ヒカリエ 8/COURT で開催した。
- (2) 「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」の事業内容を広く周知するため情報発信に努めた。
- (3) 「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 2018」を実施し、障害のある人にアート活動の機会を提供するとともに、展覧会を実施し社会に発信した。
- (4) 2020 年に「国際障害者舞台芸術祭(仮称)」を開催するにあたり、2018 年度はトップアーティストの発掘・育成事業、及び周知事業として、国外から演出家を招き作品の制作・上演を行った。

## II. 実施事業の概要

### A. 「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス」の実施

#### a. 開催日時

会 期 2018 年 9 月 13 日(木)～17 日(月)祝  
開館時間 午前 11:00～午後 8:00 会期中無休  
会 場 渋谷ヒカリエ 8/COURT(渋谷ヒカリエ 8 階)  
所 在 地 東京都渋谷区渋谷 2-21-1  
主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS  
特別協力 渋谷区  
後 援 一般社団法人渋谷未来デザイン、一般財団法人渋谷区観光協会  
監 修 NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ(AIT / エイト)

## b. 関連行事

### (1) 関連トーク

名称 「ミュージアム・オブ・トゥギャザー トーク」  
日時 2018年9月15日(土)～17日(月)祝 14:00～19:00  
会場 渋谷ヒカリエ 8/COURT (渋谷ヒカリエ 8階)  
定員 60名(全席自由席)

9月15日(土)

- [第1セッション] テーマ「DIVE DIVERSITY SESSION：言葉の本質」  
ゲスト 小野正嗣 (作家、立教大学文学部教授)  
出演 ロジャー・マクドナルド、塩見有子 (AIT / エイト)
- [第2セッション] テーマ「建築とメンバーシップ」  
ゲスト 藤本壮介 (建築家)  
出演 塚本由晴、貝島桃代 (アトリエ・ワン)
- [第3セッション] テーマ「アートと寛容性」  
ゲスト 小澤慶介 (アートの代表、インディペンデント・キュレーター)  
出演 ロジャー・マクドナルド、塩見有子 (AIT / エイト)

9月16日(日)

- [第1セッション] テーマ「DIVE DIVERSITY SESSION：多様性の本質」  
ゲスト 奥貫 薫 (女優)  
出演 赤荻 徹 (アトリエ・エー主宰)
- [第2セッション] テーマ「作品制作について」  
ゲスト 渡邊義紘 (本展展示作家、切り絵作家)、渡邊仁子 (渡邊義紘母)  
出演 ロジャー・マクドナルド、塩見有子 (AIT / エイト)

9月17日(月)祝

- [第1セッション] テーマ「DIVE DIVERSITY SESSION：参加の本質」  
ゲスト 逢坂恵理子 (横浜美術館館長)  
出演 柴崎由美子 (NPO 法人エイブル・アート・ジャパン代表理事)
- [第2セッション] テーマ「ミュージアム・オブ・トゥギャザーから見えたこと」  
ゲスト 上田昂輝 (社会人)、小寺美卯 (大学生)、ホン・ジウン (大学生)  
出演 柴崎由美子 (NPO 法人エイブル・アート・ジャパン代表理事)

### (2) 出展作家 渡邊義紘による切り絵実演

日時 9月13日(木)、14日(金) 各 14:00～18:00  
入場料 無料  
会場 渋谷ヒカリエ 8/COURT 内

## c. 概要

障害の有無に関わらず共に楽しめる展覧会をコンセプトとして実施した。  
会場には、障害のある作家と現代作家7名による作品を展示し、期間中の来場者

数は約4千人であった。アートや福祉分野に接点のない一般層への集客に繋げるため、来場者が作品と一緒に写真を撮って楽しめる顔はめパネルや、多様な領域からゲストを招いたトークイベントを行い、親子や学生など、約350名の幅広い層の参加に繋がった。

また、2017年度実施事業「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー」のボランティアスタッフがトークイベントへ登壇するなど、2020年に向けたボランティアスタッフの募集や活動について伝えることができた。

## B. 情報発信

ホームページや各種媒体を通じて、各種事業の情報発信に務めた。

### a. Web サイト「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」

「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」のメインページとして、本事業関係行事や取材記事を掲載するだけでなく、国内外で開催される関連行事等も随時掲載した。

年間を通じて、週1~3本程の頻度で、取材記事67本、関係イベントなどの広報記事45本を作成して公開した。

年間総訪問者数は延べ人数136,858人、ページビュー数は166,176PVと記事コンテンツの増加とともに着実に数を伸ばしている。

同時に記事の英語翻訳と英語サイト公開の準備を行った。

### b. ソーシャルメディアとの連携

Facebook、InstagramとWebサイト「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」を連動させ、情報の拡散に努めた。2019年3月末時点で、Facebookの「いいね」が1,498件、フォロワー数は1,720人、Instagramのフォロワー数も1,571人に達し、着実に数を伸ばしている。

## C. 「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」の発行

Webメディアで掲載した記事を再構成し、「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」(タブロイド版、フリーペーパー)として今年度は2回発行した。発行部数は各号15,000部、全国の文化施設、福祉施設、学校、書店、カフェ等で配架し、配架先も引き続き増加している。

## C. 「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 2018」の実施

障害のある人にアート活動の機会を提供し、有能なアーティストの発掘、支援を行い、社会に発信することを目的に、障害者アート公募展を実施した。

a. **アート作品の公募**

期 間 <国外募集> 2018年7月2日(月)~7月27日(金)

<国内募集> 2018年9月1日(土)~9月25日(火)

募集内容 国内外を問わず、障害のある方が制作したアート作品で過去に受賞歴のない作品。

応募点数 各作者につき3点以内

出品規格 絵画、イラスト、グラフィックデザイン、書、写真、造形など。  
素材やテーマは自由。

平面作品 縦200cm×横120cm以内

立体作品 高さ200cm×幅150cm×奥行150cm 重量50kg以内

b. **公募作品の審査・選考**

審査員

秋元雄史 東京藝術大学大学美術館館長・教授/練馬区立美術館館長

上田バロン FR/LAME MONGER 代表/イラストレーター

エドワード M. ゴメズ RAW VISION 主任編集者

藏座江美 一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事

中津川浩章 美術家/アートディレクター

永野一晃 写真家

望月虚舟 書家

森井あす香 Altruart, Inc. New York ファウンダー

審査方法

<国外募集> 8月上旬に審査員による写真審査を実施。写真審査を通過したものは、国内応募作品とともに実物審査に。

<国内募集> すべて実物審査。審査員立会いのもと、応募された作品の中から、審査員賞/海外作品賞/入賞/佳作併せて116作品を選出

応募作品数 2,256作品 (国内応募1,834作品、国外応募422作品)

実物審査実施日 2018年10月13日(土)

c. **授賞式の開催**

実施日 2018年12月1日(土)

開催場所 渋谷ヒカリエ9階 ヒカリエホールB

応募点数 各作者につき3点以内

内 容 授賞式(審査員賞及び海外作品賞受賞者)

トークセッション&映画上映

審査員賞/海外作品賞12作品の展示

交流会

d. **展覧会の開催準備**

2018 年度中に準備作業を行い、2019 年度に開催する。

名 称 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 2018

主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

共 催 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団（横浜会場）

協 力 国際障害者交流センター ビッグ・アイ  
Bunkamura（東京会場）

展覧会アートディレクター 中津川浩章 美術家／アートディレクター

会 場 <東京会場>

会期 2019 年 5 月 15 日(水)～5 月 26 日(日)（予定）

時間 10:00～19:30

会場 Bunkamura Gallery/Wall Gallery

<横浜会場>

会期 2019 年 5 月 29 日(水)～6 月 4 日(火)（予定）

時間 10:00～18:00（2 日(日)は 17:00 まで、最終日は 15:00 まで）

会場 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

内 容 <東京会場>

- ・ 受賞作品（12 点）、入賞作品（53 点）、国外佳作作品（4 点）、別枠作品（16 点）の展示

- ・ 「視覚障害者をつくる美術館ワークショップ」の開催

日時 2019 年 5 月 26 日(日)

A. 10:30～12:30 B. 15:00～17:00

講師 視覚障害者をつくる美術館ワークショップ

定員 各回 7 名程度

参加無料 要申込

<横浜会場>

- ・ 受賞作品（12 点）、入賞作品（53 点）の展示

#### e. その他

- ・ 図録制作（500 部）
- ・ 各種チラシ制作

#### D. 2020 年「国際障害者舞台芸術祭(仮称)」に向けた開設準備

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを一つの契機として、障害、国籍、言語、性別、世代の異なる様々な人や文化による舞台芸術を国内外に発信する「国際障害者舞台芸術祭(仮称)」により、2020 年以降も多様な人が共に生きる社会の実現を目指す。

2018 年度は、芸術祭の準備年として、トップアーティストの発掘と育成事業、芸術祭を周知するため、国外から演出家を招いた共同制作作品の制作・上演を行った。一

部、事業内容の見直しから、当初予定していた国際フォーラムや催しを見送った。

a. **発掘ワークショップ**

表現者として社会で活躍できるダンサー、俳優、パフォーマーを広く発掘するためのサーカス、ダンス、演劇のワークショップ・シリーズを開催。全国6都市を巡り実施した。

・ **SLOW LABEL/金井ケイスケ サーカス・ワークショップ**

日 時 2018年6月3日(日)  
1回目 11:00～13:00、2回目 15:00～17:00  
場 所 熊本市現代美術館 アートロフト  
講 師 金井ケイスケ (サーカスアーティスト)  
参加者数 28名

・ **矢内原美邦 演劇・ワークショップ**

日 時 2018年6月16日(土)  
1回目 10:00～12:00、2回目 14:00～16:00  
場 所 せんだいメディアテーク オープンスクエア  
講 師 矢内原美邦 (ニブロール主宰、劇作家、演出家、振付家)  
参加者数 28名

・ **DAZZLE ダンス・ワークショップ**

日 時 2018年7月14日(土)  
1回目 10:00～12:00、2回目 14:00～16:00  
場 所 ロームシアター京都 ノースホール  
講 師 DAZZLE (ダンスカンパニー)  
参加者数 20名

・ **DAZZLE ダンス・ワークショップ**

日 時 2018年9月17日(土)  
1回目 10:00～12:00、2回目 14:00～16:00  
場 所 新潟市東区プラザ 多目的ルーム  
講 師 DAZZLE (ダンスカンパニー)  
参加者数 21名

・ **杉原邦生 演劇・ワークショップ**

日 時 2018年10月8日(月)  
1回目 10:00～12:00、2回目 14:00～17:00  
場 所 札幌市教育文化会館 リハーサル室A

講 師 杉原邦生 (KUNIO 主宰、演出家、舞台美術家)  
参加者数 17名

・ SLOW LABEL/金井ケイスケ サーカス・ワークショップ

日 時 2018年10月28日(日) 14:00~15:30  
場 所 那覇市ぶんかテンプス館 テンプスホール  
講 師 金井ケイスケ (サーカスアーティスト)  
参加者数 15名

b. アーティスト育成プログラム「サマースクール2018」

障害のある方が表現者として社会で活躍できることを目的に、各分野での活動経験のある方々を対象にダンサー、俳優、パフォーマー、演奏者へのトレーニングを開催。参加者は「音楽」「ダンス」「演劇」のコースに分かれ、サーカス、ストリートダンス、コンテンポラリーダンス、演劇、音楽の日本人講師に加えて、アメリカ・デンバーから障害者による劇団 PHAMALY のメンバーを講師に迎えて少人数でのクラスを開催。5日間の合宿を経て、最終日には成果を発表するパフォーマンスを行った。

期 間 前期 2018年8月5日(日)から8月10日(金)  
後期 2018年8月12日(日)から8月17日(金)  
場 所 国際障害者交流センター (ビッグ・アイ) :大阪府堺市  
講 師 金井ケイスケ (サーカスアーティスト/前期・後期各コース共通表現力クラス)  
松永貴志 (ピアニスト/前期・後期音楽コース)  
鈴木ユキオ (コンテンポラリーダンサー/前期ダンスコース)  
山口茜 (劇作家、演出家/前期演劇コース)  
DAZZLE (ダンスカンパニー/後期ダンスコース)  
リーガン・リントン (劇団「PHAMALY」 (アメリカ) アーティストティック・ディレクター/後期演劇コース)

参加者数 前期27名、後期26名

c. 演劇作品の制作、上演

Ping Chong's ドキュメンタリー・シアター Undesirable Elements

『生きづらさを抱える人たちの物語』

日 時 東京公演 2019年1月18日(金)~20日(日)  
大阪公演 2019年1月26日(土)~27日(日)

場 所 東京芸術劇場 シアターイースト  
グランフロント大阪 北館4階 ナレッジシアター

出 演 岩本 陽、大橋ひろえ、Julia Olson、成田由利子、西村大樹、HARMY  
作・演出 Ping Chong (ピン・チョン)

企画・共作・共同演出 阪本洋三

プロデューサー 鈴木京子

主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

共 催 東京芸術劇場（公益財団法人 東京都歴史文化財団）※東京公演のみ

推 薦 厚生労働省

後 援 豊島区

認証プログラム beyond2020

概 要

マルチメディア演劇のパイオニア的存在でもあり、2014年にはアメリカで芸術家への最高の栄誉である National Medal of Arts を受賞した演出家ピン・チョンを招聘し、世界各国で上演してきたドキュメンタリー・シアター Undesirable Elements シリーズの新作を制作、公演した。日本での作品制作は1995年、読売演劇賞作品賞を受賞した Undesirable Elements 『ガイジン〜もうひとつの東京物語』以来、24年ぶり。

本公演では現代の日本社会で様々な「障害」や「生きづらさ」と向き合う6人にスポットを当て、演出家の阪本洋三とともに、社会に潜む課題を掘り上げた。61名の応募から選ばれた出演者6人が、聴覚障害、視覚障害、身体障害、記憶障害、性別違和など、さまざまな背景にある自らの人生に向き合い、語っていき、大きな反響を得た。

また公演時には、障害のある方に向けた鑑賞サポートとして、字幕や手話通訳、音声ガイド等の無料提供を実施した。

観劇数 東京4公演：953名

1月18日(金) 19時の回：234名

1月19日(土) 14時の回：243名

1月19日(土) 19時の回：232名

1月20日(日) 14時の回：244名

大阪3公演：534名

1月26日(土) 14時の回：221名

1月26日(土) 19時の回：128名

1月27日(日) 14時の回：185名

### III. 総務報告

#### 1. 評議員・役員の変更

評議員 退任 佐藤英夫、松本源二  
就任 吉倉和宏、菅井明則  
理 事 退任 鈴木浩司  
就任 菅原悟志  
再任 横尾紀彦、小澤 直  
監 事 退任 中村健治  
就任 山田恵一郎

※変更日は、いずれも2018年5月22日

#### 2. 評議員・役員に関する事項

##### (1) 評議員

吉倉和宏 2018年5月22日就任 日本財団常務理事  
菅井明則 2018年5月22日就任 笹川平和財団常務理事  
中西由郎 2016年10月3日就任 日本ゲートボール連合専務理事

##### (2) 理事

横尾紀彦(理事長) 2018年5月22日再任 につぼん文楽プロジェクト理事長  
小澤 直 2018年5月22日再任 日本財団パラリンピックサポートセンター常務理事  
菅原悟志 2018年5月22日就任 ブルーシー・アンド・グリーンラド財団理事長

##### (3) 監事

山田恵一郎 2018年5月22日就任 笹川平和財団部長

以上2019年3月31日現在

#### 3. 事務所の移転

これまで事務所は、ビジュアルアーツグループとパフォーミングアーツグループの2か所に分かれていたが、事務効率の向上と今後事業規模が拡大することが見込まれるため、事務所を移転することとし、2018年5月31日、石原慎治・吉川毅両氏と賃貸借契約を締結し、東京都千代田区神田神保町一丁目6番 神保町サンビルディング4階に事務所を設置し、7月7日に事務所を移転、9日より同所で業務を開始した。

#### 4. 職員について

今後の事業展開に必要な人員を確保するため、2018年4月、5月に、3名を有期契約職員として採用した。また同年4月、すでに採用している職員7名の契約を更新した。